時事新報

法界奇聞

路傍の風説に今度兩本願寺の門跡は伯爵に敍せらるるしと云ふ者あれども我輩の所見にては萬々之を信ずるみと能はざる其次第を述べんに抑も眞宗は由來久しく國民の信心最も深く且その宗義も能く民情に適したるにや凡そ日本國中に於て宗門の勢は眞宗の右に出る者なく日本は佛法國即ち眞宗國と云ふも不可なきが如し斯る次第なるが故ふ古來政府に於ても大に之を重んじ既に德川の時代にも門跡に向て是れと云ふ可き俗世界の格式は授けざれども其取扱は皇族に準ずるの例にして現に皇族と緣組したるものも多く又本願寺の家來下妻なと云ふ家は當時封建の小諸侯と相對して正に同等の地位に在りしを見ても門跡の尊きを知るに足る可し德川政府が斯く門跡に重きを置きしは門跡その人の德義を尊ぶにもあらず唯天下の群民が之を生佛として崇め奉り之に後生を托して安心するが故に經世上に之を觀察し其安心を固くするは國家安寧の基なり、衆庶の尊信する所に從て政府よりも敬意を表するは治安上の利益なりとの政略よりして扱は之を重んじたるみとなられん經世の妙味無限と云ふ可し又門跡に於ては時の政府より異常の取扱を受れども本是れ三衣一鉢の身なれば人民に接して俗事上の權力あるにあらず、其身分尊きに似たれども信徒の布施に依て衣食する者なれば一種の乞食ふ異ならずして現に路傍の乞食に對しても身分の輕重なく、時としては乞食の如く時として王公の如く俗世界の俗理外に生々して以て國民の信心を固くし以て社會の人情を和し以て間接に國安を維持したるは宗教の功德大なりと云ふ可し

然るふ明治政府に至りて天下の人事一として變革せざるものなく遂に本願寺の門跡をも俗籍に入れ、生佛を變して華族と爲し尚その佛體に附するに從何位の名を以てし恰も衆庶の後生安心を抵すを爲佛尊知識をして佛籍を脫せしめたるみそ奇觀あれ我輩は此事を見て門跡の爲めに悲しむふはあらざれども本願寺の俗了は即ち我國宗教の俗了ふして其宗教の勢力を失ふは即ち民の安心を測くするものなれば經世の一大不利として之を慨ばず好機會もあらば旗も位階も麾して本の門跡ふ還らんみとを祈りしものあるに近日の風聞は全く微意の反對に出で華族位階に次ぐに尙何爵を以てせんと云ふ奇觀いよ〳〵奇なりと云ふ可し外國人なとは殆んと其事を聞て了解に苦むみとならん彼の國の例を以て云へば本願寺の門跡はアーチ、ビショップに當る者ならんに今ふれに附する伯爵即ちカオントを以てす之を稱してCount Archbishop と云ふ可きか、先づ世界中に類例少なくして之を呼ふ敬語にも困るみとならん人或は云ふ日本政府は名利の鑪壇にして政府の局に當る人が國中第一位に位し是より次第〳〵に殺減して終に總商平民に至りて止むの趣向あれば其間に異常の者を挿みては次第不同恰も政府獨尊の光明を遮りて不都合なりなど說を作す者あれども固より小人の言にして取るに足らず文明の天下は洪大にして河海の如し細流を撰ばず異流を厭はず之を容れて容る可らざるものなし區々たる俗世界の旅位爵を繩墨ふして風畫を正さんとするが如きは大河海の量なきものと云ふ可きのみ由來久しき大敎主の身を自由の地位に放ち其尊きも卑きも單に國民信心の厚薄に任して尊きみと王公の如く卑きみと乞食の如くおらしめ政府は自家の政權を妨ざる限りに敬意を表して却て之を度外に置くふそ策の得たるものなれ當局に目ら經世の士あり豈ふの暗易き理由を知らざらんや左れば近日の風說は全く無根の言たるやを疑ふある可らず若し或は實ならしめあば唯日本の宗敎をして其運命を危くし傍より之を犯すに易からしむ可きのみ

雜報

○東京府高等女學校　築地小田原町ある同校生徒は四條眼神社建立の美舉を贊助せんとて應分の金員を醵集せしに殆んと十圓餘に至りしを以て不日之を寄附する都合なるよし

○控訴の件數　東京控訴院へ去る二月中管下各始審裁判所より控訴したるは民事百十二件、刑事五十五件なりしと

○歌舞伎座開場　客年中歌舞伎座は守田勘彌（新富座主）と優劣を爭ひ東京四座の大芝居と共に協同して營業をなす事とし守田方へ金二萬圓を出して團十郎、菊五郎を始め諸俳優とも故障なく歌舞伎座に出勤する事となり既に一回の興行もなしたる程にて至極平穩なりしが如何なる譯にや歌舞伎座の脚本家なる福地源一郎氏と守田氏の間に於て兎角意氣相投せざる模樣のありてや今度福地氏よりは斷然守田と分離するの意味なるや否やは判然かならねど此程中團十郎の出先へ掛合ひ同優をして歌舞伎座の座頭ふなさんとの懇願に同優も十に八九は承諾し守田方へ打合せし處元より外に出勤するとも新富座に出勤を謝絕する譯にはあらざるが故に守田は別に故障もなく適意に應ずべしとの回答をなしさるよし右に付歌舞伎座芝居係り一同は明後四日靜間迄揃ひの衣裳にて出迎へをなすといふ然して來る二十日福地源一郎氏の脚本に成りし團八狂歌（團十郎、菊五郎、市川團藏等のよしにて互に外面は一向無頓着に見ゆれども全く芝居は底意有眼有ともいふべき有樣ありと

○二月中橫濱に於る生絲屑物出入調　は海外輸出高二千二百九十二個、同地より入荷千百六十一個、高二千四百十一個、同賣込破棄千六百五十個半、荷渣千三百十八個、同賣込當五十七百九個、內地積返し八百五十五個半なり又二十二年七月一日より二十三年二月二十八日迄內地より同港へ入荷したる高は合計六萬八千四百二十三個ありしと云ふ

露國使節周國歷判紀行（前號の續き）

（露國人ゴンチャロフ氏著、天城生摘譯）

茲に最も余の意に適せしは日本人の裝束の餘り華麗ならざると是なり歐洲人が日本人を滿くふ往々戯謔の種々の彩色ある衣服を着せしむれども是れ大なる謬りなり下等社會の着服には皆ふ青き色多く上等社流に至ては其嗜好自ら高尙にして略ぼ歐洲の貴婦人の間に流行する所の色模樣に異ならず

旅行は我等に接するに當りて己の威風を失はざらんとを務むるが如し然れども見慣れざる我等の顏色服裝風采に見とれたる風あり而して茲に能く彼れの威氣を拔きし一事出來せり是れ他あらず彼れ歐判の際、何故に早速の返答を江戸より受くると能はざるやの理由を說明せんとて其距離の遠隔なるを示せしふ我が大使則は

に「若し我等自身ふて江戸に航行せば事務相遲取るならんか、順風に乘らすれば一週を出でずして江戸に着せん閣下是事を如何に思はるゝや」と詰問せしに奉行は顏色忽ち一變し威嚴の赫々は消滅して恰も高臺より墜落せしが如く全く風體を一變して少しく音を左方に曲げ苦笑しつゝ微音にて古兵衛に言傳へしふ吉兵衛はヒー、ヒー、ヒーと返答するのみ其時吉兵衛は端艇を倒に伏せたる如く拜伏して戰慄しながらヒーの聲を發するには實に一身を込めてせしと見受たり、奉行の言ひしは長崎外の日本諸港內に外艦を見るは實に日本人の眼を痛むるとなれば今江戸に直航して却て我等の爲めに不利ならんとの忠告なり是にて今日の歐判は相濟たれば雙方相互に勞ひて謝禮を述べ今日出處にて斯く相親むは喜悅の至なりと告ぐ我等は實に真心より斯く述べたれども（如何となれば凡そ一箇月間艦內より外出せず、且つ奉行に謁するは最も愉快なりし）大澤君に至りては或は然らざらん夫れ我露國の諺に「時ならざる賓客は惡龍人の入寇より惡し」とは誠に能く大澤君の心に的中するならん余は前ふも述べし如く奉行大澤君の任期は早や二箇月の後に滿つる故我等が偶然來航せざりしならんふは雖おく彼れは歸省すべきに國おすも我等は彼れに応介を掛け、然のみならず彼れの在勤を延期せしめたるは氣の毒の至にして彼れが心中に我等を怨むは勿論おるべし

夫より奉行は別を告げ相去らんとしたれは我が大使は數箇條の質問を爲しさるに、次回まで延引せんふとを請ひたり是れ江戸よりの使令を俟たざれば即答し難き箇條あるに依ておらん遠に彼れは一禮して去れり屬官及通辨官等おふ之ふ從て去る此時余は馬場五郎左衛門を呼て「馬場、今日は」と言ひしに彼は笑ひ乍ら黙頭せり我等馬場を見しは此時が最後なりき彼は即日我が國書を以て江戸に派遣せらる、彼は幸おる者なり一箇年の任期を首尾能く相勤めしに依て此時全く家に歸りしなり彼處に彼れの妻は相待ち居るならん或は一人のみならず多くの妻が喜び迎ふるおらんか（日本には蓄妾の風ありと余は聞けり）

是より我等に膳具を持來りて接對官等切りに饗應●受けんみとを勸めたれとも、我等前言を食まず、主人の厚意せざる饗應を受るを誰れか快しとせんと言張て、目前に並べ立てし膳部を眺き眺みつゝ手を拂つて座取を立出でたり、然れとも此日我が水夫、總隊共他從者一同皆ふ（我等の許可を得て）夫々の饗應を受けたり是より我等以前の通り列を連へて歸途に就く、艦艇に乘込むや否や亦も日本の使馬船は我等と競爭を試みたれとも徒勞に屬せし故氣の毒なりし、唯オシヤリヤン〳〵の聲は驟々しかりし我等一同本艦に歸りたる時行列に加はりし余の僕は折詰を余ふ渡したれば余即て誰の命なるやと問ひしに日本人の委托なりと答へたり

（未完）

A STICKLER FOR FACTS

Bobby—I hit Tommy and he hit me back.

Tommy—That's my say; I didn't hit his back; I just punched his nose!

廣告

福田會惠愛病院

金二十圓　芝高輪南町
金十五圓　麻布市兵衛町
金十圓　同
金二十圓　麻布
金十五圓　芝高輪車所横町
金十圓　本所横網
金二十五圓　品川北馬場
金十圓　同河岸
金二十圓　品川北馬場
金十圓　同
金十圓　麻布材木町
金二十圓（簡年分）西久保神谷川
金二十圓（同）横濱市南神奈川
金二十圓（同）日本橋
金二十錢（同）
金二十圓（簡年分）芝高輪
金二十圓（簡年分）芝高輪
金二十圓（簡年分）芝高輪